

東北震災ツアーレポート 現地を訪問して思うこと

訪問先 福島県 スパリゾートハワイアンズ

まず衝撃を受けたのは、豊間海岸付近の津波被害の風景であった。何もかも波がさらっていったらこんなになるのかという感じであった。また海岸近くにあった学校がとても寂しく建っているように見えた。子供がいない学校があんなに寂しいとは思わなかった。しっかりした防波堤があるのにそれを超えて津波が来るとは想像ができないが現実には起こったことになる。また、校友の遠藤氏の実家の門柱しかない風景も目に焼き付いている。自然現象に対して人間が無力であることを痛切に感じた。遠藤氏のレポートも実体験に基づいたものであるから説得力があり現実には迫ってくるものであった。

次に、ハワイアンセンターの下田支配人による地震発生時からの報告もとても感銘を受けることが多く、まさに「絆」に結ばれた人と人のつながりを感じた。

今回のツアーで感じたのは、立命館大学卒業というだけで、被災地を訪問したい校友がこんなにいることをうれしく感じた。そして校友会単位ではなく個人個人で参加していたこともとても良かった。さすが立命という感じであった。また、皆が言っていたように被災地を訪れたいと思っていたところへ今回の案内があり参加した人が多く、マスコミやテレビを通じての状況でなく実際に自分の目で確かめたかったと思われる。ほんとに百聞は一見にしかずであった。

被災された校友とお話しをさせていただき感じたことは、まず「忘れないでほしい」ということであった。いままではどんな事故事件も数年たつと風化してしまう傾向があったが、今回の被災規模は尋常ではなく、これを風化させずに語り継いでほしいということであった。また、「今回のツアーで現地を見たことを友人や知人に知らせてほしい」ということも聞いた。これは私の友人が言っていたが、現地を見てきた人が一番だということ。だから、説得力があるんだということである。実際そうだと思う。これからもこの震災を忘れずに語ってほしいと肝に銘じた。

今回のツアーは合計4回であるが、今後も行うべきではないかと思う。形は変えても、復興の目途が立つまで震災を風化させないためにも行ったほうがよいと考える。まだ震災地に行ってみたい校友がいるだろうし、一度いったことがある校友も是非再度同じ地を訪れて、どの程度復興したか確かめたいと思っている校友もいると思われる。ぜひ検討願いたい。

初村 雅敬